

# 佐賀県武雄市の ジャンボタニシ（スクミリングガイ） 駆除実証事業

デンカ株式会社 環境・アグリプロダクツ部 宇佐見史人

昨年（2024年）6月、佐賀県ではスクミリングガイの「病害虫発生予察注意報」が発表されました。暖冬のため越冬個体数が増えたと推定された上に、6月の降水量が多いとの予報から、移植後に多雨となった場合、“薬剤成分が希釈され効果が低下すること、浅水管理が困難になり、食害が増すとの予測”からの発表でした。

武雄市管内においても以前からスクミリングガイの食害による甚大な被害を受けていましたが、24年は平年の3倍の数のジャンボタニシが発生し、食害による収量や品質の低下など深刻な水稻被害を受けたとのことでした。

武雄市農政委員会では、以前からスクミリングガイの食害について、たびたび議題となっていたようですが、この年の甚大な被害を受け、9月の市議会で小松市長から“ジャンボタニシ駆除実証事業”が提案され、修正予算が通りました。

ジャンボタニシ駆除実証事業は、防除対策の理解を深めるための講習会を開催し、受講者に石灰窒素を無料配布により生産者の負担軽減とアンケートにより更なる対策を検討することを目的として行われました。

## 「防除対策講習会」開催

2024年12月10日、11日、13日の各日2回、計6回の講習会を開催（参加者353名）

### ■講習会内容

- ・ジャンボタニシ駆除実証事業の説明（武雄市）
- ・石灰窒素と他のジャンボタニシ対策資材との比較説明および施肥の対応について（J A）

- ・石灰窒素によるジャンボタニシ防除方法（日本石灰窒素工業会）
- ・質疑応答



防除対策講習会

## 駆除実証事業の参加申込

講習内容を理解したうえで、参加申請をした生産者は231名。

参加を見送った農家は①有機や特別栽培米などで農薬使用および仕様数に制限がある。②使用手順から対応できないと判断。などの理由があり、最終的に218名の生産者が参加。

## 石灰窒素の無料配布

25年2～3月、駆除実証事業の参加者がJAから石灰窒素を最大5袋無料で引き取り。

## 2025年産水稲栽培前の駆除実証

多くは麦後の栽培であることから、6月に石灰窒素を散布し、防除後、田植えを行い水稲栽培中。

## 駆除実証事業の参加者アンケート回答 (回収率:91.3%)

- ・ジャンボタニシ駆除事業参加説明会（6回）：  
353名
- ・駆除事業参加申込者（231名）：実施者218名
- ・アンケート回答者：199名
- ・石灰窒素の（効果、やや効果）あった  
：179名（90.0%）
- 石灰窒素の（あまり効果、効果）なかった  
：15名（7.5%）
- 回答なし：5名（2.5%）

## 今後の武雄市の対応

実証事業担当部署は、石灰窒素の駆除に対して多くの方が効果を感じていることから、補助事業を継続したいと考えているが、補助の方法については現在検討中。



スクミリンゴガイによって広範囲が食害を受けている（石灰窒素散布ナシ）



水口の一部に被害があるがスクミリンゴガイの食害は抑制されている（石灰窒素散布）